2025 年の芒種(ぼうしゅ)は 6 月 5 日です。
芒種は「芒(のぎ)のある穀物の種をまく時期」という意味です。
芒とはイネ科の植物に特有の、実の外殻(がいかく)にある棘(とげ)のような、
突起のことです。
芒があることによって、動物に食べられてしまうことを防いだり、動物の毛に
絡まることで、種子を遠くに運んでもらうことができるそうです。
稲の場合は種をまくというより苗を植える形になるので田植えの時期とも言えます。
この時期には、全国各地で豊作を祈願する祭りが行われます.
＜水口祭（みなくちさい）＞
苗代に籾を播く日に水口に土を盛り、季節の花や小枝を挿し、御神酒や焼米などを
供え、山の神に豊作を祈ります。
＜御田植祭＞
田植えの時期に早乙女などが実際に田んぼに入って田植えなどの農作業を行い
今年の農作業の無事や豊作を祈願します。

稲作活動が本格的に始まったり、虫たちが地上に姿を現し始めたり、芸事の初稽古が
行われたり、芒種は様々なことが始まる時期といえます。

＜稽古はじめ＞
能や歌舞伎などの伝統芸能は 6 歳の 6 月 6 日に始めると上手になると言われています。
そのため、6 月 6 日は楽器の日、生花の日などが制定されています。
なぜこの日に初稽古を行うと良いのか、そこには諸説あります。
指を使って親指から順に数字を数えていくと、6 の時に小指が立ちます。
そこから「子が立つ」ということで、縁起が良いとされています。

「薄月夜 花くちなしの 匂いけり」　正岡子規

意味：雨雲で月も隠れがちの夜にふとくちなしの花の香りがしました。
雨上がりの夜に、薄月が見え、クチナシの花の香りが漂う様子を捉えた繊細な情景
描写として知られています。
月明りもかすかな暗い夜で姿は見えないですが、くちなしの花の香りがしたという
季節の情感を詠った一句です。